

2024 年度第 1 回安芸高田市総合教育会議議事録

日 時	2025 年 3 月 27 日（木）午後 2 時から
場 所	市役所第 2 庁舎 3 階 第 1 委員会室
出席者の職及び氏名	市 長 藤本 悦志 教 育 長 永井 初男 教育委員 山本 博明、金川 佳寛、広瀬 ゆみ子、迫広 淑文

【総務課長】

それでは、定刻となりましたので、ただいまから、2024 年度第 1 回安芸高田市総合教育会議を開催します。

開会に先立ち、資料の確認をいたします。お手元の資料をご確認ください。

まず、会議次第、資料 1 としまして、安芸高田市教育大綱改正案について、資料 2 としまして、中学校統合についてでございます。不足等はありませんか。

本日の会議日程は、会議次第のとおりで進めて参ります。

それでは早速、次第に沿って会議を進めていきます。ここからの議事進行については、藤本市長に議長を務めていただきます。

それでは藤本市長よろしくお願いいたします。

【藤本市長】

皆さんこんにちは。お集まりいただきありがとうございます。

私の方で議長を務めさせていただくということになっておりますので、よろしくお願いいたします。

今日の会議は、概ね 1 時間を予定しておりますので、円滑な進行にご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、早速ですけども協議事項に入りたいと思います。

まず資料 1 の安芸高田市教育大綱改正案についてです。

お手元にお配りしておりますけども、改正といいましても大きな改正ではございません。

めくって 1 ページ目に、はじめにという挨拶文があります。この部分については市長が交代したということで、私の方の挨拶文に変えさせてもらったということでご確認をお願いしたいと思います。

そして、もう 1 点目が 5 ページ目ですね、5 ページ目の目指す施策の方向の中の基本方針 1、子どもたちの生きる力を育むというところの主要な取り組みの中に、多様な学びの場を確保するというのが加わっております。

これは私の方がマニフェストで多様な学び場ということで確保するということをお話をさせてもらってますし、今回新年度の方で、新たにフリースクールに対する補助事業を始めるということもありますので、その多様な学びの場を確保するというのを加えさせていた

できました。

改正については、以上、この2点でございます。

皆さんの方からご意見はございませんでしょうか。

【迫広委員】

それでは、2点ほどお聞きをしてみたいと思います。

1つはですね、今、市の方で総合計画を策定中だと思うのですが、その中に教育に関する記述があるかどうか、私は分かりませんが、もしあるとすれば、この大綱の中身とその市の総合計画の部分に関する文面との連動性といいますか、そのあたりがどうなっているのかなってということが1点目です。

あれはあれ、これはこれというのはちょっとまずいんじゃないかと。やっぱり市民の方が、この部分に触れられて、市もこう言ってるが、教育部門の最上位の教育大綱にもこういうふうに書いてあるなということでご理解いただけるんだと思うんで。市民へのメッセージという意味合いも含めて言えば、その連動性を持たせるということが大事なのではないかと思いますので、そのあたりがどうか。

それから2つ目はですね、この後、議題に上げていてもらいますが、いわゆる中学校統合について、ちょっと見させていただくと、ちょっと関連する記述がないようにですね、今、教育行政の中で一番重要な課題というのは中学校統合なので、それが含まれてないことが、やや不自然に映るわけです。

先ほど言いましたように、最上位の教育大綱の中に、今の最大の課題である中学校の統合のことが触れられていないことが、市民からすると、あれってという感じに映るんじゃないか。なので、大綱ですから詳しく書く必要はありませんけれども、学校規模適正化委員会の答申内容を踏まえて、学校統合を進め、よりよい教育環境の整備に努めますぐらいの言い方でいいと思うんですけど、その辺りを含めるべきだと私は思いますけども、その辺りの市長さんのお考えがあればお聞かせください。

【藤本市長】

ありがとうございます。

2点ほどですけども1点目の件についてはですね、最上位に今、市としての最上位がこの総合計画ですので、それとの連動というか、整合性は当然って参ります。

その具体的な記述についてちょっと今準備してませんけども、当然そこは十分に酌み取った形での連動した総合計画を策定するように考えております。

それと2点目の中学校統合が具体的に明記がないんじゃないかというところで、ちょっと不安というか、そういったところについてはちょっと具体的には確かでないのが事実でありますけども、細かく内容のところできっとそこを汲み取っていただければなと思います。例えば、私の挨拶の中の教育環境の創出というのはやはり、中学校統合、小学校統

合、そういうのを含めて、可能なできることをやって教育を保障していくという思いでいますんで、そこはおっしゃるとおり、具体的な文言というのは上がってきてませんけども、そういった取り組みの中では、しっかりと意識してやり切っていくということでご理解をいただければと思います。

【迫広委員】

続いてごめんなさい。

私どもはそれでわかるんですけども、市民の方から見て、今これほど旬の話題になってますので、しかも市長さん、去年からずっと軒並み市内へ出かけて行って、対話集会を重ねていられていますよね。

そういうことからすると市民は、どういうふうになるんだろうかということで、今その状況を見守ってもらっている状況だと思うんですけども、今このタイミングでこの大綱を出すにあたって、そのことに触れていないということが市民の目から見てやっぱりどうなんだろうかという感じがするわけですね。

なので、さっき言った短い文章でもいいので、統合についてはこういうふうを考えてますというのが、概略的なところでいいので、触れておくべきだと思いますが、私は先ほどの市長さんの答弁で理解できますけれども、市民から見てどうなのかなっていう感じがしたので、ちょっとごめんなさい。2回目の質問ですが。

【総務部長】

大綱は普遍的なものということで作らせていただいております。

今、委員おっしゃられた中学校統合について、具体的にということではなく、教育委員会と相談、協議をしまして、今後も使えるような形で文言の方を整理をしてみたいと思います。

【藤本市長】

よろしいでしょうか。

【迫広委員】

はい。

【藤本市長】

ありがとうございます。

その他ばどんなでしょうか。

【広瀬委員】

先ほど、このところを加えましたということで、主要な取り組みのところに多様な学びの

場を確保するとありました。市長さんの方からは、民間のフリースクールへの補助金のことを述べられましたが、学校訪問等で全学校回った時に、不登校ぎみのお子さん、もうすでに不登校になっているお子さんがいます。その理由は多岐に渡るので、そのいろんな課題がある子が、場所を選択して行けるっていうところがあるのは本当にありがたいことだと思うんですね。それで、今現在学校でも SSR とか、それから市内には公立の教育支援センター等もありますよね。

それから、市長さんの所信表明のところに書いておられたインクルーシブ教育、そんなところも含めて、もう少し具体的にお聞きしたいなというのがあります。不登校になった子どもさんって、どことも繋がらないことで学習が止まるってというのがすごく不安になるって聞くんですね。そして保護者にとっては、このことはいつ終わるんだろうかっていう、夜明けがいつ来るみたいに本当に悩まれるというふうに聞いています。そういうお子さん含め保護者の方が、いつも市長さん言われるように、誰一人置き去りにしないというところで、自分が行きたいところを選べるというふうに民間のフリースクール以外にも力を入れていただけたらなと思います。ここにしっかり書かれてるので、もう少し具体の思いがとおりでしたらお聞きしたいなと思います。お願いします。

【藤本市長】

ありがとうございます。

おっしゃるとおりですね、今本当に子どもの抱えている課題というのは、多種多様になっています。

その中で学び場もですね、しっかりといろんな選択肢を設けることによって、学校に通えなくなった子どもたちが、学べる場所を確保する時代なんだと思います。もう学校だけで見れるという時代じゃないんで、そういった意味で今回は民間のフリースクールに対しての補助事業というのを、これ一応県内初ということでもありますけども、させていただきました。

そういった中でフリースクール支援だけではこれは解決するもんでもないんで、公立のセンター等々 SSR も学校の中にありますし、その子どもたちが選べる望むところをしっかりとですね保障していきたいなという意味で、今回ここへ一行ほど加えさせていただきました。

当然いろんな多種多様なことを、これは行政だけではなし得ないことなんで、現場の先生方或いは当事者保護者の皆さんと連携をとりながら、しっかりと考えていきたいと思っています。

【広瀬委員】

関連してもう 1 点よろしいでしょうか。

今現在はちょっと私も利用があるのかないのか定かではないですけども、以前に安芸高田市に住みながら広島市内であるとか、三次の方であるとか、そういうフリースクールを利

用されてるお子さんがいらっしゃるというふうに聞いていて、そういうことで本当に保護者の負担はかなり大きいと思うんですね。お金もかかりますし、通学のこと、それから家にいるときに、ずっと見守りがいる低学年であれば、保護者も働かれなくなる。そんなことがあるので、民間のフリースクール、今の吉田にあるところだけに補助金を付けるというと、ちょっとそれぞれの子どもたちに平等性がないのかなと思ってしまって、そのあたりはどうお考えかお聞かせください。

【藤本市長】

今回の補助事業は、吉田にあるフリースクールだけではありません。

現時点で把握してるのが吉田にあるフリースクールということでありまして、これは市内全域に広がってくれば、またそれに合わせて事業の方は拡大していかなくてもいいかなと思ってます。

【広瀬委員】

ありがとうございました。

【藤本市長】

他はどんなでしょう。

はい、教育長。

【永井教育長】

私からは、お礼を申し上げたいというふうに思いますが、3月21日に、この3月議会の最終日を迎えました。

市長になられて、当初から予算編成というのは、来年度が初めてになろうかと思うんですが、最終日、議会の承認もいただいて、多様な学びの場に関係する予算ももちろんですが、教職員の働き方改革に関わって、具体には、学校用務員の制度を来年度も引き継いでいただくということで、これは市長の方からのアドバイスもいただいて、来年度からは、学校用務員を学校校務員という表現に改めて、引き継いで継続していただくということで、大変喜んでおります。

学校現場から言いますと、主には管理職ということになろうと思いますが、今お勤めいただいている用務員の方の本当に献身的な努力で、学校訪問をしても、学校の環境が良くなったというのが本当に、一目で見ても改善されているということがよくわかります。

これまでは管理職が、具体的に言いますと、草取りであったり、秋の落ち葉の清掃等をやらざるをえない状況にあったわけですが、やっぱり子どもたちの心を耕すといいますか育てていくというのは、環境も大きく関わってきます。

引き継いでですね、この辺りの取り組みにも気配りをいただいて、少しでも安芸高田で学

び育つ子どもたちの、環境を整えていただければ、本当にありがたいなというふうに思っているところです。

とりあえずは、来年度のこの制度の継続ということに対して、この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

【藤本市長】

ありがとうございます。

引き続きその辺は連携しながらですねやっていきたいなと思っております。

他にはないでしょうか。

それでは1の大綱については、以上で終了させていただきたいと思います。

それでは次の2つ目の中学校統合についてです。

この中学校統合についてはですね、私が以前市長就任より以降の取り組みの中で報告をさせていただいておりますが、まずは統合に対する私の考えについて述べさせてもらい、そのあとまた皆さんと意見交換をさせていただきたいなと思います。

本日の2つある項目の中で一番大きなテーマになっております。そして今年度中に私の思いをまとめさせてもらうということでお約束もさせてもらっておりますので、今日ぎりぎりにはなりましたが、一応この総合教育会議で私の思いというのをお伝えさせてもらい、その後の手続きといいますか段取りに入っていければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

まず結論から申し上げます。

結論については、安芸高田市一校、吉田町内への新築ということでまとめさせてもらいました。私の気持ちを整理させていただきました。

先ほど言いましたように、中学校統合については、就任以来、就任前からですね皆さんからいろんな意見をいただいております。

そういった中で、もう一度皆さんの思いを聞かせていただくということで対話集会の最初のテーマということで設定をさせてもらい、市内6ヶ所に2日ずつ、計12回開催をし、延べ291人の方のご参加をいただきました。

そしてその後、現役の中学生の対話集会、そして市P連の役員の皆さんとの対話集会をこなして参りました。中学生の対話集会では47名、延べですね生徒の皆さんと直接ですね、こうやって輪になって話をさせてもらい、思いを聞かせていただきました。本当にですね子どもたちの思い、いろいろ複雑だと思います。

しかしながらその中で、やはり統合に対する期待という声が大きかったように思います。そして何よりですね、やっぱりその中学校がなくなることへの不安というのも素直に語ってくれました。

校舎、それぞれ1校になれば5校、5つの学校校舎が空きます。この跡地利用はどうするんですか。壊すのにお金がかかるんでしょうとか、本当にそういったところまで心配をしてく

れてました。

これは親御さんと家で話をしてもらったりしている中で、子どもの中にも芽生えたというか身についた思いなんだろうなと思いながら、本当に感動といえは変ですけども、そういう子どもたちの思いをしっかりと聞かせていただいて、私の最終的な 1 校を新築という思いに整理に至ったのはやっぱりこの子どもたちの声、思いが強かったということの報告を、紹介をさせていただきたいと思います。

そして市 P 連の役員さんも今、自分の今の代の役員さんですけども、多分統合する頃にはもう役員さんでないか、子どもさんももう巣立たれてるんだろうと思いますけども、やはりその先の安芸高田市の中学校のあり方、教育については本当にしっかりした思いを持っていただいており、それをしっかりと本当にいい雰囲気です。ね対話集会ができました。

そういったのも、この結果に判断するに至った思いであります。

そして私自身がですね、やはり統合というのは私事になりますけども同級生 7 人しかいません。そして中学校は 3 学年で 22 人しかいない川根中学校という小さな学校を卒業します。そして私が最後の卒業生で、今は川根中学校はもうありません。

この前も川根小学校が高宮小学校に統合しましたんで、川根地域には小学校、中学校とも 2 つとももうなくなってるということで、母校がないという寂しさ、ある意味悔しさもあります。

しかしながら、これはもうどうしても誰も責めることもできない課題でありますし、ここはやっぱり乗り越えないといけないことだと思います。

当時の川根中学校を統合するときも、地域の皆さんの話を聞くと、やっぱりそういった乗り越えないといけんということで、地域が主体になって統合を進めていったという話も聞いてますんで、それはやっぱり子どもたちを第 1 に考えた地域の皆さんの判断だったんだらうと思います。

そういった時代は変わりましたが、やはりそういった中で時代が変わるけども、今の時代の方はやはりそれを、的確に間違った判断をせずに統合するということが必要なんだろうなと、今の時代だからこそ必要なんだろうなと思いました。

そういったことで、統合の対話集会の中で私の思いが表に出ない、わからないという意見もですね、参加していただいた方からいくつかいただきました。

もう当初からですね、私はこの統合については、私の思いを伝えようとは思ってませんでした。というのは、私の思いを言うとそれに沿った意見になるか、雰囲気になるかなというのもありましたんで、あえてフリーな立場で皆さんの本当の思いを聞かせていただき、そのベースにあるのはもう素案として 1 校案、2 校案というのが出てましたんで、そこをベースにどうするかという判断をしようと思ってましたんで、参加された方の中にはそうやってちょっと、市長の思いが伝わらんというところで歯がゆい思いをされた方がいらっしやったことには大変申し訳ないと思いましたけども、そういったスタンスでちょっとやらせていただきました。

そういった中で、やっぱり地域の皆さんの声というのは統合賛成、反対、本当にはっきりしてました。それはもう本当にそうだと思います。地域を二分するぐらいの大きな課題なんです。そういった思いをしっかりと出していただいたのは、私としてはすごいよかったかなと思ってます。そして、最終的にはやっぱり子どもたちの夢を保障してやらないといけんのだろうなという思いです。

今、いろんな思いを持って小学校、中学校で子どもたちは生活してるんだと思います。その思いを大人の都合ですすね、蓋をするようなことがあってはいけません。ましてや、親も含めて地域のものがそれを蓋をしては、阻害してはいけないという思いであります。

やっぱり地域が、地域に中学校がなくなると、若いものが帰ってこんとか、地域のまちづくりに対して逆方向に向かうというのは当然考えられますし、多分にそういったことはこれからもあると思います。

そういった中で、それを理由にですすねやっぱり子どもたちの小規模校での学校、多様な学びの場を保障できないということに持っていくのは、やっぱり大人として今いる我々の責任世代においてやるべきことではないだろうという思いがしております。

対話集会で、これは甲田地域ですけれども、やはり地域からなくなっちゃいけないという声は本当に厳しかったです。

でも、やっぱりそれは統合というのを、デメリットに捉えるのではなく、チャンスとして捉えていく必要があるんだろうなと思ってます。

先ほど言いましたように、子どもたちは本当に無限のいろんな多様な夢、自分の将来を考えて今生きてますんで、それを選択できる教育環境を整えて整備するのが、先ほど言いましたけども、我々責任世代のやることだろうと、大人のやることだろうと思ってます。

そういった意味で、1校にすると多様なクラブ、或いは多様な学び、いろんなことが保障される、選択できるようになると思います。

そういった中で、1校にしてもですすね、大都市から見ればちっちゃな学校です。本当に広島市のような大きな規模な中学校にはなりませんけども、そうは言っても、安芸高田市1校になることによってかなりのそういった選べる、クラス替えは当然できますし、クラブを選べるということになるので、そういったことをしっかりと保障していける教育環境を整備して、この機会にですすね、整備していきたいというふうに思いました。

もちろん先ほどもありましたように、多様の場の保障という関連で、大きくなると、その学校に馴染めない子どもたちも出てくると思います。そういったのはやっぱりそういった公的なフリースクールとかいろんなものをですすね、保障する環境を同時に整備しながら、開校を迎えるように配慮をしていきたいなと思っております。

そして、統合をマイナスに考えるのではなく、チャンスと捉えるべきだということを先ほど言いましたけども、これにはやっぱり地域の皆さんの覚悟は必要です。

中学校がなくなったということで悲観的に思うのではなく、もう一度、中学校はあくまで中学校であって、各地域のまちづくりはまた別、別と言いますけど関連はあるんですけど、や

っぱりそこはそこでやっていかにゃいけんなと思っております。

将来、若者が帰ってきたいと思うような地域を我々が作り守っていくのが、我々の責任、責務だと思ってますんで、そういった意味で、中学校統合後のそれぞれの地域のあり方については、行政が責任を持って考え、取り組んでいく覚悟でいます。

そういった中の一つの取り組みとして、支所機能の見直し、そして集落支援員を配置し、地域振興会をもう一度見直し、地域を輝かせていくような取り組みを、責任を持ってやっていこうと思っております。

そして統合ということになりますと、やっぱりそれに向けて準備が始まって参ります。統合準備委員会ですかね、そういった名称のものも立ち上げて準備を進めていきますけども、これはあくまで行政主体ではなく、地域の皆さん、保護者、時によっては子どもたちもしっかり参加してもらうような形で、しっかりと議論をしてみんなで作り上げる中学校を目指していきたいと思ってます。

ここで委員さんにも共通の認識、或いは市民の皆さんとも共有したいんですけども、これは数の少ない学校が大きい学校に吸収されるという数合わせだけの統合ではないということをご皆さんで共有したいと思います。

あくまで対等合併ということで、たまたま吉田が多かってそこが中心ということでそこに集まるんであって、本来はどこに行ってもいいわけですけども、いろんな条件の中で、吉田の地に、新設するということで、ですから吉田中学校に周りの5校が吸収されるんだというようなことではありませんので、そういったところもしっかりと準備委員会の中で皆さんと共有をしながら、それぞれの地域の学校の良いものを持って、安芸高田市の中心へ新しく作るんだと。名称も、安芸高田市立安芸高田中学校になるかどうかわかりませんが、そういった名称も含めてですね、本当に誇れる中学校にしていけるように、皆さんと一緒に取り組んでいければと思っております。

そして財政の部分ですけども、ここはやっぱり対話集会の中でも皆さんいろいろご心配いただきました。決して楽観できるような財政状況ではありません。ここは工夫をしながらやらなければいけないと思いますが、後程、事務局の方から、ざっくりとしたイメージ感、全部を一般財源で市のお金でやるんじゃないというようなところの説明もですね、させてもらいたいと思います。

こういう事業をすると、すべて市の一般財源でやるのかなという思いをされる市民の皆さんもいらっしゃるかもしれませんが、ここは有利な補助金とか起債とかそういったものを活用しながら、できる限り市民の皆さんの負担を抑える形で進めていきたいと思ってますんで、そういったところは後程、事務局の方から具体的に例で示させていただきたいと思います。

あとは統合の期日ですね、目安は一応5年というのを思っておりますが、これ状況によってはちょっと6年とかずれることもあるかもしれませんが、できる限り可能な限り早くできるようにですね、やっていきたいと思えます。そこはちょっと条件をいろいろ考えなが

らやっていきたいと思います。

それと具体的な位置について、これは来年度、この4月からですけども、実際に調査をさせていただきたいと思います。

これはまた議会の方には調査費の方とかもお願いしないといけんと思いますけども、どこに建てるのが一番有効かというところをですね、しっかりと現地も含めて、いろいろ考えて一番いい場所をまた考えながら決めていきたいなと思っております。場所はいろいろ検討すればあると思いますんで。しっかりと調査をしていきたいなと思ってます。一応場所についてはそういったところで、わかり次第またお示しをすることと、一応5年ぐらいを目安に頑張って建設に向けてやっていくということを、一応私の思いとして整理をさせていただきましたので、ここでご報告をさせていただき、方向性が決まればですね、来年度以降4月以降、順次必要なものをもろもろ一つ一つステップを踏んで、開校にこぎつけたいと思っております。

この間、いろいろとですね、私が市長になってからどっち向くんだらうかということで皆さんにご心配をおかけしたと思いますけども、そういった意味でしっかりと皆さんの思いを聞かせてもらって、今日、方向性を示めさせていただいたということでご理解をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

それではこの件について、皆さんの方から意見交換をさせていただきたいと思います。

【金川委員】

冒頭、市長さんの方からお話を聞かせていただいて、まずは安堵したというのか、そういう気持ちです。

やはりこの中学校統合の話が出たのが、浜田市長時代の新聞記事によって、まず中学校統合問題というのが、まず最初に出たと思います。もう10年以上前であります。その頃から、今ここにはいらっしゃらない教育委員さん、また事務局の皆さん、いろいろ、いろんな場がありながら、その中で統合の話はずっとしてきました。

5年前からはさらに詰めて、ずっと今の委員さんと、また事務局、いろんな話いろんな協議、それも保護者、実際の生徒にはなりませんけども、今行ってる生徒、子どもたちの意見、多様な話を聞いた中で、我々の中で新築1校がいいんじゃないかという話を、結論づけさせていただいたとったようなところではあったんですが、先ほどお話あったように市長さんのどういう意見なんだろうかというのがやっぱり見えない中で、今日ここでいろんなご意見、また、対等合併なんだよっていう話とかを聞いて、いろんなことを考えていただいて、私の考えとる結論と同じような考えで進んでいただけるんじゃないかっていうのを今非常に感じていて、これから先もですね、子どもたちの学校ですから、子どもたちのことを第1に考えて、やっぱり学びやすく楽しい明るい学校づくりを目指して、一緒にやっていきたいなっていう気持ちを感じました。

今日、このこの場で藤本市長がそういう発言をされたのは、この今10年話をした中の

大きい一歩を今日進めたと、この時間進んだんだと僕も捉えてますので、これから先もですね、完成までしっかりと一緒に頑張っていけたらと思います。よろしくお願いします。

【藤本市長】

ありがとうございます。
事務局の方から、建設費の。

【教育次長】

校舎の建設に関わってですけど、確かに多額の費用が発生します。

ただ、現在の思いとしては、その事業費の財源は国からの補助金と、起債の充当を見込んでいます。国からの補助金や起債にはそれぞれいろんないくつかの種類があるんですが、財源的に最も有利なものを充当したいというふうに考えています。

例えば、国からの補助金は、通常事業費の2分の1が交付をされます。残りを、最も有利な過疎債というのがあるんですけど、それらを充当した場合には、過疎債の充当率は100%で、後年度交付税措置で7割が返ってきますので、実質、市の負担は事業費全体の15%程度ということで、決してすべてが一般財源ではないというところをご理解いただきたいと思います。以上です。

【藤本市長】

ありがとうございました。

増築とかですね現校舎の有効利用とかいうのも考えたんですけども、改造とか増築となると、コストが逆にかかるというのもあって、逆に改造とか増築なら補助金が出ないとかいう規制もあるんで、あっさり新築した方が、負担の方は結果的に安くなるだろうという判断もあり、新築というところになっております。

他はどうでしょうか。

【迫広委員】

私も金川委員さんと同じようにですね、非常に難しい判断だったんだろうと思いますけども、このように英断を下していただいたことに本当に安堵してますし、また感謝申し上げます。

そこで一つお聞きするんですけども、対話集会を重ねてこられて決断されたということと、しかも中学生の子どもたちの声が非常に印象深かったというお話だったように思うんですが。その中でも、特に市長さんが一番胸を打たれたとか、なるほどと納得させられたとか、決め手になった一言とか、何かそういうことを覚えていらっしゃれば、一つでも二つでも、今後のためにもちょっとお聞かせいただければと思うんですけども。市長さんの心が揺れ動いたんで、子どもたちがまあ、かなりすごいこと言ったんじゃないかなということも思

うんで、その辺りをちょっと覚えておられれば、教えていただきたい。

【藤本市長】

嫌だって言う子どもが多いかなと思ったんですよ。

やっぱり、今の学校がなくなるのは寂しいとか、通うのが遠くなるとか、そういった、要は通常心配されとる、よくある統合反対の意見が子どもたちの中に、やっぱり実際に通いよるんで多いかなという思いがあったんですが、すごいその逆ばかりの意見でした。

この前も議会の中で紹介させてもらったんですけども、例えばスクールバスになると思うんですけども、通学時間が、我々大人の感覚ですれば、1時間ぐらいを子どもを乗せとくのはそれは無理じゃひどいというような話になるんですけども、子どもたちはその時間が楽しみだっていうんですよ。

その中で友達と交流ができる、話ができる、勉強しようと思ったらその中でできるとかね、そういったやっぱり全然発想というか、違うんだなというところで、目からうろこのような言葉が適切かどうかわかりませんが、そういったやっぱり子どもの感覚というのは違うんだらうなと。

それとやっぱり無限の可能性じゃないですけど、いろんな夢を持ってるのもありまして、こういうスポーツをしたいとかこういう選手になりたいとか、いうのもありましたんで、そういったものを保障するのは、これを1校にして、ある程度の規模にしてやらんと叶えてやれないんだらうなという思いがしました。

当然、不安いうのはどの子も持ってると思います。ただ、その不安よりも、やっぱりその次の後輩たちもそういった学校で学んで欲しいという言葉を書いてくれたと思いましたんで。

親は反対してますという子もいました。当然、素直に本当だなあと思って。

対話集会の後ですね最近になって、今度その反対しとった親の人が、子どもとそういう集会を持ってくれてありがたいと、私らはそういう反対だったけど子どもの話を聞いて、賛成に気持ちが変わったよっていう、言ってくれちゃった親の方もおっしゃったんで、そういった子どもを基本に考えると、そういう流れというか雰囲気になっていくんだらうなというのは思いました。

【迫広委員】

ちょっと今の話を聞きながら、どう言いますか20年、30年後の安芸高田市の未来を託す若者たちの教育支援に舵を切られたという英断にですね、非常にさっきも言いましたように感謝してますし、大変な決断だったんだらうなと思いますけども、今ちょっと思い出したんですけど、新潟県の長岡藩、江戸時代にですね、米俵100俵の逸話が有名な逸話がありますけど、まさに、令和版の安芸高田市における米俵100俵という話になりうる決断だなあというふうにちょっと思ったんですよ。

なので、いよいよこれから統合後の中学校、安芸高田市の1校の中学校のあり方を、今から準備をしていくという必要性が出てくるんだろうと思うんですね。

それで、先ほど金川委員も言いましたように、新築と1校はセットで考えようということ、私は教育委員で共通理解をして、調査研究協議を重ねてきたわけです。

なぜそれが必要なのか。バラバラになると、統合の意義が半減してしまうと考えたんですね。それは、付加価値をどう付けるかとか、費用対効果をどう高めるかとか、生徒減というマイナスをプラスに転換させる発想とか、そういうものがないと、何十億も使うんで、ただ、この人数合わせだけの統合では、それはもう市民の方に大変申し訳ないので、付加価値を高めて、費用対効果を高めて、素晴らしい中学校にしよう、そういうことを考えたわけです。

それでそのためにはやっぱり1校で、特にですね、新しい校舎で新しい仲間とともに新しい中学校を創造しようと、その辺りをコンセプトにした中学校を作りたい。そういう中身で、特に3番目の新しい中学校教育の何かって言ったら、これいつも教育長さんが議会答弁なんかで言われるように、子どもたちが主人公の学校、主体的に子どもたちが動く学校、これが今求められているんですね、文科も県教委も。で、現在中学校を見てみると、なかなかそこには至っていないというのが現実なんですよ。

なので、この統合を機に、そこに着手する、手を加える、そして6校同時閉校して、そこで1回今までをリセットして新しい中学校を作るという、いいきっかけになるわけで、そこに力を入れてやっていこうということも話し合ってきたわけです。

そういうところで付加価値が高められる、費用対効果も高められる、やっぱり1校にして、少し通学時間はかかったけども、子どもが喜んで学校に行ってくれるというのが、一番の地域や保護者の喜びでもありましようから、その辺りを考えてきていたわけです。その辺りを市長さんがしっかり理解をいただいているので、広島県下の中でも新設統合校のモデル校として評価されるぐらいの動きをね、今後あと5、6年かけて準備をしてというところで、市長さんもお理解いただければというふうに思います。すいません、長く申しました。

【藤本市長】

ありがとうございます。

やっぱりリセットというのは必要だと思います。

ただ、すべてをリセットするんじゃなくて、やっぱり各校にある文化というか誇りの部分はね、しっかりと持ち込むような中学校にしていって、そして胸を張って行ける、本当に後輩たちにこういうものをつないでいってやりたいというのは6校ともそれぞれ言ってたんで、そういったものを本当工夫をしながら繋いでいくというのも必要なんだろう、これはもう先輩、今までの卒業生に対する感謝の思いもあるんで、やっぱりそういったところはしっかりと繋いでいきたいなど。

そういうのもしっかりとこの準備委員会の中で、議論して作り上げていきたいなという思いはしております。

【広瀬委員】

今回、1校で新設というふうに大きく舵を切っていただいたことに本当、心から感謝したいです。うれしく思います。

市長さんがいつも対話からの前進って常におっしゃってることが、本当に今回そうだなと思って、それが根底にあるんだなということが、今までのご説明の中で、じわじわと伝わってきました。思うんですけど、今現在の統合してない現存の中学校が決して悪いわけではないと私は思います。

学校訪問をして、どの学校も子どもたち、先生、地域の方が力を合わせて工夫をされて、先ほど言われた伝統行事も維持されながら、本当に各学校が特色ある教育を進めておられると思うんです。

その一方で、先ほど子どもたちの話も出ましたが、部活動の選択が難しいこと。そのうわに、授業の中でも、体育での集団種目であるとか、音楽の合唱ってもっとたくさんの方がいいだろうな、合唱祭も楽しいだろうなとか、本来の学びが完璧に保障できているのかなというところは工夫の上に成り立っていて、生き生きしてはいますが、不安なところもあります。

なので、先ほど5年と言われましたが、今は学校の学びのあり方が変わってきて、多様な考えに触れ、子どもたちが主体的に仲間のお話を一生懸命聞いて学び合うという形になるので、班に分かれて班編成をして協議したり、意見を言い合ったりが主流になっています。学校や学年によってはそれがもうすでに困難になっている1桁のクラスもあります。

だから、せっかく決断していただいたので、1年でも早く新しい学校になるように、これからがスタートだとは思いますが、そこのところ5年というところを本当に目指して、6年7年とならないようにお願いしたいと思います。

【藤本市長】

方向性を決めさせていただいた以上は、1日でも早く結果を出すのがやっぱりとるべき道だと思いますんで、そこは皆さんと協力しながら、やっていきたいと思います。それでも、どうしてもクリアできないところはあるかもしれないけど、そこは一緒にやっていけばいいと思います。

【山本委員】

市長さんが最初話されたとおり、市民の皆さんの中にはですね、地域が寂れるとか寂しくなるという声がある中で、市長さんが、未来を生きる子どもたちのことを最重要に考えて、結果を出されたっていうふうに受けとめました。

大変ありがたく思っております。以上です。

【藤本市長】

ありがとうございます。

重い決断でしたけど。した以上は、もう責任を持って前に進めていこうと思っておりますので、ご協力の方よろしくをお願いします。

【永井教育長】

それぞれ教育委員の皆さん方から感謝の言葉もたくさん出ておりますが、私もですね、本当にこのたびの市長の英断には、感謝を申し上げたいと思います。

義務教育の最後の仕上げといいますか、修学前から言いますと、15年間の最後の3年間の仕上げを、安芸高田市で育てている子どもたちが、ハード面ソフト面、同じ環境の中で教育を受けることができるというのは、本当に安芸高田市内の今後を、やっぱりある意味、決定づけるぐらいのポイントになるんじゃないかなというふうに私もずっと思って、先ほどから出てます中学校統合するんであれば、1校の新築ということを実際に願っていました。その方向に今日大きく前進をしたということで、本当にありがたいと思います。

先ほど、生徒との対話集会の中で、人間関係に不安を持ってる生徒がいたという話もありました。今、それぞれの学校規模が小さいんで、ある意味当然だと思うんですよね。集団が大きくなることへの不安というのは。

だからこそ、義務教育終了までに、より大きな安芸高田市で考えられる、より大きな集団の中で、子どもたちがもまれ、切磋琢磨し、人との関係性を学んでいく、そういう環境が是非とも必要なんではないかなと思っておりました。

ちょっといつの議会だったか忘れたんですが、今日も傍聴に来ておられる熊高議員から一般質問を受けまして、生意気にも、今、安芸高田の教育が面白い、そういうところまでたどり着いたんじゃないかと思えますと。面白いというのは、子どもたちが育っているという意味の話を、質問を受けた熊高議員に対して話したのを思い出しますが。

今これも市長が言っていたように、子どもたちが本当に前向きな統合に対しての意見を市長に述べたといいますか、訴えたというのが、これが本当に子どもたちが育っているということの一つの証明ではないかなというふうに思いながら、私も報告を聞かせてもらいました。

これからもですね、ぜひ一人の人格、人権を持った、子どもではなく一人の人間として、やっぱり中学生レベルの子どもたちを、見守っていくといいますか、育てていただくとというのが本当に大事だし、それに十分こたえる力を安芸高田市の子どもたちも持っているというふうに思っております。ぜひ、市長が言われた子どもたちが持っている夢、それに対して大人が蓋をするようなことはしてはいけません。

或いは統合をデメリットと捉えるのではなく、ここは私も全く同感なんですが、安芸高田

市が子どもたちに準備できる一番いい教育環境を整える、それはデメリットではなくて、メリットを更に大きくしていくという、このたびの統合というふうにとらまえていくと、もう必ず多くの市民の皆さんの理解や協力をいただけるというふうに思いますので、ぜひ引き続いて一緒になって、この中学校統合をやり遂げていきたいなというふうに思います。本当に今日はありがとうございます。

【藤本市長】

私の恩師から身に余るお言葉をいただきまして、本当にですね、川根小学校で、ちっちゃい小学校と一緒に学んできた中で、この判断はしんどかったですけど、それは間違いでないように、持っていきたいと思いますのでお願いします。

他にはないでしょうか。

【金川委員】

これはお願いになるんですけども、今、大きい一歩を踏み出したと思います。これから生徒であって子どもたちであったり、親御さんであったりというのが、一歩進んだ先で、いろんなことをまた考えていろんな意見をいただけるんじゃないかと思います。

また、対話集会に行かれまして、また次のステップに進むためのまた会議ですね、また保護者、また実際、生徒が主役ですので、そこら辺の意見をしっかり汲み取っていただいて、新しい学校づくりを進めていただければと思います。それがお願いします。

【藤本市長】

もちろん、方向性が決まったから行政の方で作り上げる統合というのはですね、毛頭考えてませんので、事あるごとにしっかりと市民の皆さん、子どもたちの意見を酌み取りながら、作り上げていきたいという思いは変わりませんので、よろしくお願いします。

それでは、皆さんの方から無いようでしたら、その他連絡事項はございませんか。
事務局の方からは無いですか。

【総務部長】

先ほどの委員の方からありました大綱の文言の一部修正なんですけれども、教育委員会の方と調整をして、委員の皆さんに確認をしていただくという方向で進めさせていただいてよろしいでしょうか。

【委員】

はい。

【藤本市長】

それでは以上をもちまして、2024年度の第1回総合教育会議を終了します。
長時間にわたってのご審議、ありがとうございました。